

### 意識調査や被爆体験記データ化 「平和発信」が必修科目に

広島大歯学部が本年度、1年生の必修科目に「ひろしま平和発信」を初めて採り入れた。9月までの実習で、原爆資料館（広島市中区）の運営改善に向け、来館者の意識調査に協力。国立原爆死没者追悼平和祈念館（同）では、被爆体験記の電子データ化に取り組んだ。ヒロシマの学生であるとの自覚を深めてもらうため、同大は来年度にも全学部へ広げる方針だ。

4～9月の年30時間余の科目で、95人の1年生全員が受講した。前半は被爆

#### 広島大 まずは歯学部

者の講話を聴き、市内の平和関連施設や慰霊碑を巡って原爆被害の実態を学んだ。

8月から9班に分かれて実習。資料館では、来館目的や見学時間、印象に残った展示を問う日本語と英語の調査票を用意し、見学を終えた人に協力を呼び掛けた。75カ国・地域、計4556人分を集めたほか、来館者に鶴の折り方を教えるなど交流を深めた。

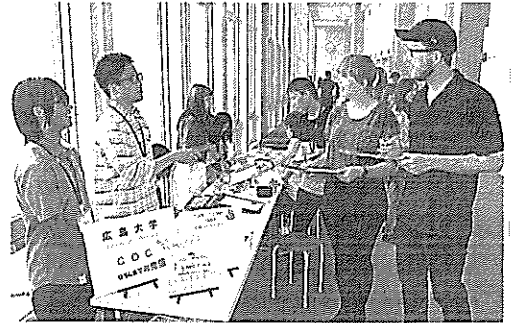
祈念館では、被爆者の手記を館内の端末で手軽に読めるようパソコンで打ち込

む作業を進めた。2人一組で誤字がないかを確かめ、計107編を仕上げた。

市内で育った小田香菜子さん（19）＝安佐南区＝は「平和教育を受けたけど、ずっと受け身だった。被爆者の思いを受け継ぎ、発信する義務があると再認識した」。奈良市出身の若林侑輝さん（19）＝東広島市＝は「遠い世界のように思っていた被爆体験を以前より身近に感じ、広島の子の自覚が芽生えた」と話す。

科目は、平和問題に関心を持ち、広く発信できる人材を育てるのが狙い。地域課題に関心を寄せ、自ら解決できる力を養う文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」にも認められた。資

原爆資料館で来館者の意識調査をする学生たち（9月17日）



料館と祈念館も「ヒロシマの継承につながる」と協力している。

広島大の卒業生の約7割は、広島県外に就職している。学術・社会産学連携室は「ヒロシマを理解し、卒

業後に進んだ先で発信する力を付けることは学生のためになるし、大学の存在感を高めることにもなる。他学部の1年生にも広げたい」としている。

（田中美千子）